

# 高知県教育委員会 会議録

平成26年度第6回教育委員協議会

場所：高知会館 3階 「飛鳥」

## (1) 開会及び閉会に関する事項

開会 平成26年6月17日(火) 18:30

閉会 平成26年6月17日(火) 20:30

## (2) 出席委員及び欠席委員の氏名

出席委員	教育委員長	小島 一久
	委員	竹島 晶代
	委員	八田 章光
	委員	中橋 紅美
	委員(教育長)	田村 壮児
欠席委員	委員	久松 朋水

## (3) 高知県教育委員会会議規則第9条の規定によって出席した者の氏名

高知県教育委員会事務局	教育次長(総括)	勝賀瀬 淳
〃	教育次長	中山 雅需
〃	教育次長	永野 隆史
〃	教育政策課長	有澤 功
〃	高等学校課課長	藤中 雄輔
〃	高等学校課企画監	坂本 寿一
〃	教育政策課課長補佐	中平 貢正
〃	高等学校課課長補佐	高野 和幸
〃	教育政策課チーフ	溝渕 松男(会議録作成)
〃	教育政策課主任指導主事	葛原 彩子(会議録作成)

## (4) 教育委員長の依頼により出席した者

高知南中学校・高等学校校関係者 保護者代表(5名)  
校友会代表(4名)  
進取会代表(3名)  
国際教育振興会代表(3名)

【冒頭】

委員長 教育委員協議会を開催する。

教育長 (あいさつ)

本日は今年度、第6回目の協議会となります。県立高等学校再編振興計画の「たたき台」について、再度ご意見をお伺いするために、高知南中学校・高等学校の関係者の皆様にお集まりをいただいております。

ちょうど、1か月前の会に続いてご出席いただきまして、大変お忙しい中、まことにありがとうございます。

さて、前回皆様にご意見をお伺いした後、高知西高等学校、須崎高等学校、須崎工業高等学校の関係者、また県の小中学校長会やPTA連合会の皆様にご意見を伺ってまいりました。従いまして、今日が県立高等学校再編振興計画の「たたき台」についてご意見を伺う会の第5回目ということでございます。

前回、皆様にご出席いただきました際には、貴重なご意見や皆様の思いをお聞かせいただきますとともに、文書でご質問、ご意見をいただきました。このご質問、ご意見に関しての文書による回答は、あらかじめお渡しさせていただいておりますが、本日は、改めて、県教育委員会から回答とその考え方をお示しさせていただいた後に、皆様からの忌憚ないご意見をお聞かせいただきたいと考えておりますので、よろしく申し上げます。

【協議 県立高等学校再編振興計画について（高等学校課）】

○高等学校課企画監 説明

○高知南中学校・高等学校関係者 保護者代表との意見交換

保護者代表	先日提出した資料について、このような回答を頂きありがとうございました。やっと出てきた回答である。この回答については、今見た人も多いので内容の細かいところまで一つ一つ議論することはできないが、主要なところだけ、また、今までのところについて質疑をしたい。
委員	初めに、委員の皆さんはこの回答資料をいつの段階で目を通したのか。よろしければ一人ずつお願いしたい。
委員	日付についてははっきりと覚えてないが、細かい所までの案としては先週拝見した。質問の回答については、以前から我々が議論している内容である。それをまとめた形で拝見したのは先週であった。
教育長	先週見た。
保護者代表	案を作成する段階から係わってきている。意見を頂いてから検討をさせていただいていた。
教育長	最終確認したのはいつか。
保護者代表	最終的には、回答を渡す前である。最新の形になったのを見たのは先週の土曜日であり、その時に最終確認をした。
委員	先週ということで日にちは覚えていないか。
委員	6月12日に定例の教育委員会があり、その際に説明を受け資料を見た。

委員	12日の午前中に勉強会をした際に見ている。
委員長	私も同じである。
委員	同様である。
保護者代表	<p>私が受け取ったのは、土曜日の午後7時10分ぐらいであった。その前、午後5時10分ぐらいに「今、書いている最中で、まだできていない」と企画監から電話連絡があった。「いつになればできるのか」と尋ねると「分からない」という回答であり、「今日できるなら待つ」というと「まだ、確認が取れていない。月曜日に確認を取ってからではないと渡せない」ということであったので、「そうですか」と言ったが、その後、坂本企画監が検討してくれ、「何とか土曜日中に間に合わす」ということで、私は教育委員会の庁舎に出向き、そこで午後6時前ぐらいから待ち、7時10分に回答を受け取った。午後5時の時点でまだできていなかったが、「土曜日に渡そうと思って作業をしていた」ということであった。企画監からは、6月5日ぐらいに別件で電話があり、「質問の回答はできたか」と尋ねると「まだできていない」とのこと、「できれば早くいただきたい」と伝え、それ以降一度も自分は電話連絡をとっていない。確認を取り正当なものなら、前もって渡して欲しい。私がいただいた回答には、公印も割印も押してあったが、どこまで信用できるのか疑問がある。ただ、この回答については、これからもう一度私たちの方で議論を重ねるので、もう一度この様の場を設けてもらうような配慮をしてもらいたい。</p> <p>具体的な話に入りたい。最初に新聞報道の内容であるが、再度伺う。今回の再編振興計画については閉校・廃校という案でいくのか。統合という考え方でいくのか。文書では統合という言葉が見えてくるが、再度聞きたい。高知南中高校の廃校・閉校で話を進めていくのか。それとも高知南中高校と高知西高校の統合案でいくのか。それを聞きたい。</p>
事務局	あくまで統合案である。高知南中高校と高知西高校が統合するということには変わらない。
保護者代表	<p>まだ、統合の案ということである。回答書の中に報道機関に対して「報道の自由を尊重しつつ、明らかな事実誤認等がある場合には、報道関係者に対して、適切な報道がなされるよう求めてまいります。」とある。本日、高知新聞社がいるので、前回報道された「閉校」という文字を改めて訂正していただきたいと思う。いかがなものか。</p>
教育長	<p>回答の中に書いているが、県としては趣旨と異なるので申し入れをしている。どう書かれるかは高知新聞社や報道機関の考えである。</p>
保護者代表	<p>高知新聞社さんいかがか。矛先が違ってきて申し訳ないが、いかがか。今までは、口頭での説明であったが、今回この様に文書で回答を頂いた。教育委員会として「適切な報道がなされるように求めてまいります」という文書に対してありがたく思っている。だから、今ここで、それを実行していただければと思う。</p>
委員長	この場合は、報道機関の意見を聞く場ではないので、回答した資料の内容でお願い

保護者代表	<p>いしたい。</p> <p>では、「統合案」という形の報道で進めてもらいたい。せっかく膨大な回答を頂き、素晴らしい回答の内容を見てこれから検討しなければならない。「統合案で現在進められている」という報道にして欲しい。</p> <p>一つ気になっている点がある。6学級の必要性和30人学級は難しいとの話があった。しかし、先日から頂いている資料の中では、高知南中高校と高知西高校の統合計画の進め方について、高知南中学校は平成30年度に募集を停止し、募集停止前の中学生が高校に上がる時は、そのまま高知南高校に進学するという形になっている。先ほどから、少人数が非常に悪いと、教育環境が悪いと学級数が少なくなると非常に悪いとの説明があったが、募集停止前の1年生は進級しても下級生はいない。今3学級で進めているが中学生は3学年合わせて9学級あるが、次の年は6学級、その次の年は3学級になる。高校は6学級であるので全体で18学級、その次の年は12学級、次の年は6学級となる。先ほどの話の中では、そのような環境は悪いとの回答をいただいているのに、高知南の中学生、高校生は学級が減っても良いのか。そのような考え方であれば、このような統合は無いのではないか。改めて統合の案を考え直す必要性があるのではないか。高知南だけが6学級、3学級、もしくは12学級、6学級という形でいいのか。</p>
教育長	<p>今の方針で統合する場合は、おっしゃる通りのことになる。今の方向でやる場合には一時的な姿としてはやむを得ない部分はある。しかし、その部分をいろいろな形で不利が生じないようにできるだけフォローする対策を取っていきたい。</p>
保護者代表	<p>この案は、ここに書いてあるように募集を停止し、中学生がそのまま高校に上がっていく、一方で新たな中学校ができ、高校まで上がっていくというものが、案を変えるということもあるのか。</p>
教育長	<p>今の時点では何とも言えないが、意見を伺い検討することはできると思う。</p>
保護者代表	<p>私が統合に賛成したというように聞こえるかもしれないが、あくまでも、高知南中高校を存続したい気持ちがある。</p> <p>先日の協議会の小中校長からも同様な意見が出ており、「やむを得ない」と今教育長が言ったが、高知南中高校の生徒だけがやむを得ないのか。そのような考え方ではなく、別の考え方でこの案については見直すべきではないか。あまりにも雑であり、もう少し丁寧な検討の仕方をして頂きたい。</p>
保護者代表	<p>今の質問の中で、「やむを得ない」という言葉はすごく失礼である。今、何百人の子どもたちの居場所が、教育が、帰る場所がなくなろうとしている。高知南中高校の生徒だけ不公平である。高知の教育は、一つのところだけ不公平ですよと言い、それが「やむを得ない」で済むのか。先ほどから対処の方法としてスクールカウンセラーという言葉が出てきたが、今までにスクールカウンセラー相談にきている生徒の数は把握しているか。</p>
事務局	<p>数までは把握していない。</p>

保護者代表	スクールカウンセラーを配置し、それが役に立っているかどうかも把握していないということか。今の子どもたちが、実際にスクールカウンセラーにかかっているかも把握していないということか。今の子どもたちが、カウンセラーがいてもそこに行くのかどうか、そのところも考えてもらわないといけない。ただ単にカウンセラー、カウンセラーと言っても、何の役にも立っていないのではないか。
事務局	スクールカウンセラーへの相談件数は把握していないが、どのようなことを相談しているかとかの中身については聞いている。説明した資料の中にも心のケアのため養護教諭の複数配置と書いている。学校から、保健室の方には相談に行きやすいと聞いている。スクールカウンセラーとなると外部の方なので、相談に行きづらい面もあると聞いている。そういった意味で、現在養護教諭が中学校高校各1名のところをもう1名増やし、相談しやすい体制にしたらどうかとのことでこのように書いている。スクールカウンセラーは現在常勤ではなく、週1回ということから、常時配置できるようになればいろいろな場面でケアし易いのではないかと聞いている。
保護者代表	今までのスクールカウンセラーと養護教諭への相談件数は分からないのか。
事務局	相談件数は把握していない。
保護者代表	それなら来ているかどうか分からないのか。
事務局	相談に来ていると聞いている。スクールカウンセラーまで相談に行く件数については少ないと聞いている。
教育長	件数について、我々は把握していないが、学校としては把握している。学校側と相談させてもらってニーズがあると判断し、案をつくった。
保護者代表	学校側からの要請なのか。
教育長	我々として教育環境の充実が必要であると考えており、具体的に対応するとすれば何が良いのかを学校に相談し、意見を頂き、書かせてもらっている。それと「やむを得ない」とのことに対して失礼でないかとの質問があったが、聞き方によってはそのようにとられたことについては言葉足らずで適当でなかった。統合については、いろいろな考え方がある。今の考え方は、入学した生徒が入学した学校で卒業することが望ましいのではないかと、それぞれの学校関係者から意見を聞いたうえで示している。この考え方でいくと、一時的に生徒が少なくなる時期ができることは事実である。そのことで学校の活力が落ちることも心配される。我々としては一時的ではあるが、そこをカバーできるいろいろな手当を精一杯講じていきたいという考え方である。
保護者代表	役職から確認したい。小島委員長は教育関係者代表という立場から教育委員になったということで間違いはないか。
委員長	たぶん学識経験者という考え方だと思っている。
保護者代表	竹島委員は保護者の代表ということでよろしいか。
委員	保護者の代表は中橋委員です。
保護者代表	竹島委員は何の代表なのか。

委員	スポーツをやっていたのでその関係であると思っている。
保護者代表	八田委員も学識経験者代表か。
委員	それで良いと思う。
保護者代表	中橋委員は何の代表か。
委員	先ほど、竹島委員から回答があったように保護者委員で入っている。
保護者代表	田村教育長は事務方の代表でよろしいか。
教育長	はい。
保護者代表	皆さんは県議会の承認を得て半公人として教育委員になられているということと間違いないか。
	八田委員に聞く。高知県の場合、特に高知市の場合、私立の中学校、高校が他府県と比べて多い。私は東京に30年位いた。高知にいる方は分からないかもしれないが、そのような現状を捉えて、少子化の問題が起こっており話し合いがもたれているが、八田委員としてはどのように捉えているのか。
委員	個人的な意見でよろしいか、教育委員としての意見ではなく私の意見でよろしいか。
保護者代表	個人の意見で結構である。
委員	高知県は私立学校が非常に強いと感じていて、私自身違和感をもっている。中学校は公立の中学校でしっかり勉強して、県立、市立の高校、いわゆる公立の高校でしっかり勉強して自分の夢を実現できる体制をどうしてもつくりたいと強く思う。今一番危惧しているのは、すべての県立高校が小さくなっていくと私立高校だけが突出して残ってしまうことである。我々は、私立学校に対して定員をどうこうしなさいとは言えない。私立学校に対抗できるしっかりした公立の中学校、県立の高校をつくっていかねばならないと非常に強く思っている。その中で高知南中高校は結果的には統合ということで案を出している。母校がなくなることは本当に悲しいことであることは私も十分分かっている。非常に悲しいことと感じるが、10年後、20年後の高知県の子どもたちのことを考えると意を決して、このような方向に考えていかねばならないというのが個人の意見である。
保護者代表	もう一点、この案の中で、高知南中高校全員で約1,000名位いるわけであるが、その1,000人を廃校にすることによって、他の公立の中高校に進むという案で進んでいるが、今の話を聞くと現実的に私立にほとんど行っている中で1,000人がそのまま県立にスライドするとは考えづらい。どのような計算を根拠に委員の皆さんが納得したのかお聞きしたい。
委員	質問の意味がよく分からないので、もう少し説明をお願いします。
保護者代表	今回、高知南中高校が統合されるということで、高知南中学校が400名、高校が600名、合わせて1,000名がいる。統合することによって、他の中学校、高校に行くことになる。生徒数、学級数を維持しようとした案が出ているが、先ほど言われたように、現実には私立学校が多いので、高校の600名がもし高知南高校がなくなった場合全員公立の学校に行くとは、私としてはどうしても考

<p>委員</p>	<p>えられない。この案は全員が公立に行くような案であるが、それを教育委員が納得された理屈を教えてもらいたい。</p> <p>個人の意見であるが、今の質問とまったく逆の考えである。その600名が県立高校に来て欲しい。そうするためには県立高校をどうすれば良いかが私の強い思いである。自動的にはならない。先ほど申したように公立の中学校をもっと良い環境にして、安心して通えるようにしたい。今いろいろな問題を抱えていると保護者の方々からよく聞く。このような案をつくったので来年から変わりますかと言われたら、それはなかなか難しい。5年、10年経ったときに、まだそうですかでは絶対に許されないことである。我々は10年先を見越した時に、高知市の生徒が安心して地元の公立の中学校で学べる体制を是非つくりたい。それに合わせて、県立高校を充実させ、私立に負けない教育環境を是非つくりたいと思う。</p>
<p>保護者代表</p>	<p>関連することで、私の持っている情報であるが、2006年から東京都の品川区、人口60～70万人あると思うが、全部の小中学校で小中一貫教育を行っている。自民党の教育再生実行本部でも小中一貫、中高一貫制度を利用して、6・3・3制度を廃止して新しい教育環境をつくらなければならないということをやっている。そのようなギャップの解消という意味でいうと、高知県の場合はもっともっと早く、20年も前にこの様な体制を取っていかなければならないことであり、かえって遅いぐらいである。昨日の協議会の時に、高等学校課長が、高知南中高校の連携は非常にうまくいきどんどんレベルが上がってきていると小中校長会の皆さんに話をしていた。なぜ、そのような学校を残さないで潰していくのか分からない。2012年現在、全国で441校の一貫校があるようだが、中高一貫教育の利点は6年計画である。6年間の中で生徒の個性を伸ばしたり、社交性や人間性を伸ばしたりすることができる。やはり少子化対策、中山間地域対策、高知県は貧富の差が大きくなっている。そのようなことを教育委員の中で検討してもらいたい。</p>
<p>委員</p>	<p>続いて、竹島委員に聞く。今回、高知南高校と高知西高校、須崎高校と須崎工業が統合する訳であるが、出身校等が統合、または廃校となるとしたらどんな行動を取るか。</p> <p>8年前に高知県に帰って来て、4年前にこの仕事を引き受けた。高知県の実情をみた場合、先ほどの意見であったように、5年後、10年後を考えていけないといけない。高知南中高校はバレーボール部が頑張っており、高校生は四国大会で2位になった。それは、今、高知南中高校の生徒数が一定数以上いるということからである。しかし、先を見た場合、生徒数が減ることは仕方がないことであり、文部両道を盛り上げるためには統合など、先のことを見越してやっていかなければならない。ただ、それが高知南中高校ということが心苦しいが、皆様の命のことを考えている。やはり、皆様が良い状態で勉強してもらいたい。そのためには、あそこの場所では不安があると考えて、今回このような案になったことを分かってもらいたい。</p>

保護者代表	<p>中橋委員に尋ねる。今回の統合案は、今年の1月に受検生がやっと受検校を決定し、両親や友達とどこの学校へ行こうか考え、やっと考え抜いたうえで願書を出したその翌日に県の教育委員会が統廃合を発表した。これはまさに究極の子どもに対する人権侵害であると思う。このような問題をどのように捉えているのか伺いたい。</p>
委員	<p>人権侵害ではないかということであったが、そもそも人権というのは、人がらしく生きる権利ということになり、幅広い意味を持っている。憲法にも書かれているが人権は公共の福祉のために利用しなければならない。濫用はしてはいけないと憲法には書かれている。今回の場合、子どもの権利が侵害されたのではないかということであったが、子どもの教育を受ける権利について侵害されていない。将来の子どもたちが高知南高校で勉強する機会は奪われるかもしれないが、教育を受ける権利を奪われたものではない。そのような観点からして人権という問題を考えるときにはこれは人権侵害ではないと考えている。</p>
保護者代表	<p>人権の専門家に聞いた時には、究極のいじめだということで回答があった。裁判沙汰になるかどうかは別として、その専門家たちはちゃんと訴えていかなければならないと言っていた。</p> <p>委員長に聞きたい。今回の統合は、生徒数減少ということである。委員長も学校の経営者ということで、一般に例えば、モノが売れなくなるとマーケティング調査をしてその原因を突き詰めて、どうするかを考案すると思う。高知市に私立の中学、高校が集中している。本来は高校の生徒だけの問題であるが、中学校のうちから生徒を集めているのである。そのあたりを考えると県立の一貫校も私立学校と同じように6年間の進学に対応のカリキュラム編成ができるわけであり、高知南中高校で中高一貫教育をやっていたというが、教育委員会がそれほど踏み込んでやってこなかったのが、この様な結果となっているのではないか。少子化、少子化ということで一つ案がある。須崎市には明德義塾があるが、あそこは日本全国、いや世界中から生徒が集まっており少子化は関係ない。このようなことを教育委員会が明德義塾に行き勉強しなければならない。少子化対策を教育委員会がしていなかったということが現実ではないか。少子化対策について委員長の考え方を聞きたい。</p>
委員長	<p>基本的には、高知県の子どもの視点に立てば、私立学校も公立学校もお互いに頑張ってもらいたいということになる。ただ、私立学校だけが勝ち組、公立学校が負け組と仮になった時に、これは結果的に見れば、高知県全体の教育の成果がなくなってくる。したがって、公立学校が頑張らなければならないとの思いがある。今、現実には高知市に私立学校が集中しているが、歴史的な経緯があり、いまさら議論しても始まらない。現実を見据えて、これからどうするかを考えていく必要がある。その中で統合の問題が出てきたが厳しい問題だと思っている。公立高校の中で、大学にも進学でき、就職もでき、全ての保障をしたいという思いを強く持っており、それに対する取組をしてきたが、まだ道半ばである。しかし、昔の様な私立学校と公立学校の関係ではなく、対策をす</p>

	れば必ず私立学校と公立学校が対等になれると思っている。そういう考え方で、今後の再編計画を進めていきたい。
保護者代表	最後になるが教育長に聞きたい。前回は質問したが、今回の統廃合の原案は、前教育長が作成したものであると私どもは受け止めている。任期を2年残して退職したが、家庭の事情が理由ということであり、教育委員会として事業を継続していくとのことであった。しかし、最近、前教育長はのいち動物公園の理事長として新しく仕事をしていると聞いたが本当か。
教育長	そのように聞いている。前回、私が聞いたこととして回答したのは、家庭の事情と6年間という長期にわたって教育長の席に就いていたので、あまり長く留まるのはどうかという思いから引かれたということだ。合わせて、県の仕事は個人で進めるものでは決してない。再編振興計画は、教育委員会として協議し進めていくものであり、教育長としての役割は私が引き継いでいる。
保護者代表	前教育長は、高知新聞の退職時の記事で、学校の先生でないで学校のことはよく分からないとの発言があった。今回事業を継続するには、教育長には先生の経験があり、学校の事情が分かっている人でないと継続が難しいのではないかと思うが、教育長は学校の先生の経験はあるのか。
教育長	行政事務の職員であるので学校の先生の経験はない。
保護者代表	私の質問は以上です。
保護者代表	今回の回答の14番であるが、高台への移転計画であるが、「生徒数が減少する中で、高知市内及びその周辺部で全く新たに校舎を建設することは、現実的ではないと考えています」と回答されている。先日の高知西高校との協議会を傍聴し、高知西高校に新校舎を建て中学校をつくと聞いたが、高知南中高校を移転して建てるのはよろしくないが、高知西高校で新たにグローバル教育をやるためには新たな校舎を建てることに対して問題ないという差別的な考え方をしているのか。
教育長	ここに書いているのは、必要に応じて施設整備することを否定しているものではない。全く新しい場所で用地を取得し、全く新しい形で一つの学校全体をつくるのが現実的ではないということを書いてある。
保護者代表	統合されて高知西高校に新校舎を建てるとしたら敷地内ということであり、拡張したり、どこか他の場所を借りたり、新たに土地を取得したりしないということか。
教育長	今の時点では、敷地内と考えている。趣旨としては、すべてをゼロベースからつくるということは現実的ではないということである。必要になった場合には増築することはあり得ることである。
保護者代表	高知南中高校もゼロベースでないので、検討して移転ということもあると考えてよろしいのか。実際に高知南中高校が今あるのでゼロベースでない。
教育長	新しい場所でゼロからという意味である。高知西高校に統合する場合は、高知西高校に校舎があるところにプラスして、必要なものをつくるという考え方である。ゼロベースで一からつくるということは現実的ではないと書かせてもら

保護者代表	<p>っている。</p> <p>高知南の高台移転は全く考えていないということか。安全面からみた場合もないということか。</p>
教育長	<p>安全面からという、もちろんあると思うが、ここに書いているように生徒が減っていくなかで、全く新しい形での高台移転ということは現実的ではないと考えている。</p>
保護者代表	<p>もう一点、今までの資料を見ているが、高知西高校との統合によってグローバル教育と国際バカロレアの話が出てきている。資料の国際バカロレアについての説明を見ると、「国際的に通用する大学入学資格を付与することを狙いとした制度」と書いてあるが、いくら調べても入学を保障する制度、入学資格制度ということが出てこない。国の指針でこの様な資料になっていると思うが、私が調べた中では受検資格ではないかと思う。私が間違っていればいけないので、事務局で調べてもらい正確な情報をいただきたい。「国際バカロレアのディプロマ資格を取得することは高い評価を得る、しかし、北米の大学でSATが重視されていることが現状であるようです」と調べた資料に書いている。入学資格が取れるのはフランスのバカロレア制度ではないか。間違っているかもしれないので事務局で確認をお願いしたい。高知西高校の説明の時はずっと入学資格という話が進んでいたのが気になっていた。</p> <p>また、国際バカロレアの資格は非常にお金がかかる資格と聞いている。授業料は別に徴収するのか、県費や国費で賄うのか。「授業料が高いといわれている」とあるので実際にどうか分からない。「政府が助成金を支払う場合なら国の税金、県費になれば県民税となるので、その額も示すべきである」という懸念が書かれている情報もある。「著名な出身者や有名な大学への進学実績も示されていない」ということも情報の中にある。そのあたりを整理してもらい、私が調べたのが本当なのかも分からないので教えてもらいたい。</p> <p>新たに校舎をつくるということについて、高知南中高校は統合されてなくなるが、高知西高校の方は力を入れ、金を入れていくとなると、高知南中高校の保護者としては、教育基本法違反ではないか、教育の機会均等を逸脱しているものでないかと心配であり、引っかかっていることである。一部の勉強ができる生徒には力を入れ、普通の生徒は我慢しろということになる。将来の子どもたちのために今の高知南中高校の生徒は我慢しなさい。生徒数も学級数も減っていくことも致し方ないとの考え方は、教育基本法の機会均等に抵触するのではないか。教育基本法第4条、教育の機会均等で「すべて国民は、ひとしく、その能力に応ずる教育を受ける機会を与えられなければならないものであって、人種、信条、性別、社会的身分、経済的地位又は門地によって、教育上差別されない。」といわれている。一部のできる生徒のために金を使って良い学校をつくって、勉強させて私立学校に勝てる学校をつくって、高知南中高校を統合してしまうのは乱暴ではないかというのが個人的な考えである。</p>
事務局	<p>国際バカロレアの卒業のところであるが、入学資格というのは各大学が示す入</p>

	<p>学条件の中に入ってくるものであり、例えば、カナダ等では面接だけで入学できる。おっしゃる通り、アメリカは別途試験を行うところもあるが、バカロレアの資格をもっていることがプラスの評価となる大学もある。</p> <p>大学進学について質問があったが、今、教育再生実行会議等で、大学入試の制度の見直しが行われている。例えば、推薦入学などは、別の機会をつくっているだけで、十分それぞれの個性等をみることができていないのではないかとということで見直しが図られている。その様な議論の中で国際バカロレアの資格についても入学資格に入れてはどうかとの意見が出ている。現在のところ大阪大学、岡山大学、筑波大学が新たに入学枠を設けるということで、早稲田大学、慶応大学など、いろいろな大学で推薦入試の見直しとともに国際バカロレア資格を入学資格に導入したいという意向が出てきていることも事実である。今後、状況は変わってくると思われる。我々としては、AO入試などに対応できるような体験を、国際バカロレアコースの生徒もそうであるが、教員が教え方を身に付けることで、広く提供できると考えている。計画でも先導的な取組として取り上げているが、できるだけそれを広げていきたい。高知の子どもたちは可能性を秘めているので、ペーパー試験だけでなく、自分のいろいろな個性を表現し、それを将来の進路につなげていけるようにしたい。授業料は今のままで、別途に徴収することはないと考えている。</p>
保護者代表 事務局	<p>県費、国費が入ってくるのか。</p> <p>そういうことである。</p>
保護者代表	<p>そのようなコースへ行った子どもには、そのようなことが付いてくるのか。同じ公立学校でも。</p>
委員長	<p>格別そうではなく、他の学科と同じような考えである。</p>
保護者代表	<p>国際バカロレア資格を取るためには、ISO規格と同じようなものでヨーロッパにお金を入れないといけないのではないかと。ISO規格とかは、ヨーロッパにお金を集めるために、ヨーロッパの頭の良い人が考えたものにいろいろな企業が乗って「資格があったほうが入札の時有利ですよ」といってお金をヨーロッパに集めるためにやっているがそれと似ているものではないか。この事もよく精査してもらいたい。高知西高校の方々にも生きた情報を提供していかないと期待しているだけのものなのか疑問が残る。そこのあたりも精査してもらいたい。</p>
教育長	<p>国際バカロレアのプログラムを実施するには、他の教育をするよりお金が掛るとの主旨であったと思うが、そのような面は無いとは言わないが、例えば、工業高校でそれぞれの学科でその授業をしようとする、それなりの機械の整備等がある。いろいろなニーズに応えるために、いろいろな教育プログラムを提供しようとし、その一つとして国際バカロレアやグローバル教育があり、そのようなプログラムをぜひ選択肢として提供させてもらいたいという主旨である。</p>
保護者代表	<p>私立学校でないので公立学校の枠を外れないように、差別の無い教育をしてい</p>

保護者代表	<p>ただきたいと思う。</p> <p>今の国際バカロレアに関して、高知西高校に新しく中学校をつくるということで、全県下から優秀な生徒を集めると、高知西高校との協議会で説明していたが、公立の中学校は義務教育で試験ができない。私立であれば試験を行い優秀な子どもを集めることができるが、高知南中学校は非常に苦労して、5年目になって前校長が一般の数学や国語などとは関係ない社会問題を考え、それを実施することにより、急速に学校がまとまり素晴らしい学校になってきたが、高知西高校でスタートするための選考にどんな案があるのか。できない試験の中でどうやって生徒を集めるのか教えてもらいたい。</p>
教育長	<p>国際バカロレアやグローバル教育など、6年間の高いレベルの教育を受けさせるためには、それに見合った資質をもった子どもでないと中学校に入学できないのではないかと。その選考をどうするかという趣旨の問いであったと思うが、まず、受検の段階でそのようなレベルで勉強していく学校だということを知ってもらう必要がある。知ってもらったうえで受検してもらうことが大前提である。そして、具体的な選考方法は決まっていないが、一定レベルの学力が必要であるかもしれないが、合わせてどのような思いで受検したかなどを総合的に判断してうえで入学を認めて行くものになるのではないかと考えている。</p>
保護者代表	<p>今話を聞いて検討してもらいたいことがある。先ほどから公平に公立中学校としての役割を担うと言っているが、高知市内の高校で、進学校と言われていた高知追手前高校、高知小津高校に次ぐ形で高知西高校が今回のたたき台で出てきていると思う。高知北高校、高知丸の内高校、高知東高校は看護科があり特殊な学校、高知工業高校も工業で特殊であり、春野高校も特殊な学校である。普通的高校は、現在、高知追手前高校、高知小津高校、高知西高校、高知南高校がある中で、大学進学ということで上へ上へと高いレベルを求めているが、学力の中の中、中の下の層の生徒たちの受け皿も必要である。須崎高校との協議会の中の話で、生徒数が少ないが地域外に出ている割合が半分以上であるとの報告があったが、最終的にみると定員に足りていることは、高知市内から子どもたちが郡部の学校に通っている現状が多少あると思うので、そのあたりを見直して、検討してもらいたい。どんどん学力を上げて行くことに付いて行けない生徒もいる。現実はそのようである。そのような子どもたちの行き場である学校も必要である。須崎工業との協議会の時に出ていた意見であるが、全員が大学に行くと高知県の人口が減る。高知県に残って就職するような、就職を目指す学校も必要である。社会に出るための高校も必要である。最終的に平等ということを考えると高知南中学生が募集停止後は下級生がいまま高校卒業まで進んでいくことは良くない。そのまま継続して、平成33年度に例えば、高知西高校のある所の学校に移るとということが本来の統合ではないか。先ほど言っていたが、平等という形、大きな意味で人権を損なうような事のない形で再度検討して欲しい。案であるので再度慎重に検討してもらいたい。</p>
保護者代表	<p>回答の中にもあるが、1月27日に公表した県立高等学校再編振興計画のたた</p>

<p>事務局</p>	<p>き台の液状化現象については、第2次高知県地震対策基礎調査平成16年3月の資料とか危機管理からとかの文書を頂いているが、これは、平成16年3月分のシミュレーションで出したものか。</p> <p>たたき台を出したのが1月27日であった。この時のデータは問10、11の右に書いているが、その時の最新のデータが平成16年3月で若干古い、これを元にたたき台をつくっている。その後、更新されたのが平成26年1月30日になっている。たたき台の時点では新しいデータを使っている。</p>
<p>保護者代表</p>	<p>今日、県の港湾・海岸課と危機管理・防災課の方に全部の資料とシミュレーションを見せてもらった。内容も全部聞いてきた。5月に県で出している資料も見た。回答には、漂流物被害についてなどが出ているが、県としては、その対策をやっとこれからやろうとしているところであるとのことであり、土木部もどこも同じだった。東日本大震災からまだ3年である。あれから急いでやらなければいけないということであったが、やっと立ち上げようとするところであると言っていた。特に港の方はどうなっているかと聞いたが、今年の初めに伝えたとおり、調査をしているけれども、すぐにやらなければならないということではなく、青柳の方から、次は潮江の方ということである。堤防の方もかさ上げして、順々にやるようにしている。高知南中高校ばかりが危ないと報道されることについて、どのようなものかと今、検討しているとのことであった。近くに大きな会社があるが、その対策も連携して私たちはやっているが、県の方は動きがないと言っている。民間なので、まだ、どのようなことをして良いか分からないのでできていませんとのことであった。そのようなことについての話し合いをしているが、その結論を今年の暮れに5割方、7割方になるか分からないが、何らかの結果等を出すので、急いで話を進めるものではないということである。県の方でも三重防護のやり方について手前の方からやって、それで駄目であれば、次のところをやるなど、いろいろな案を出してやっているところである。南海トラフ地震、津波と言っているが、現状はそのような形である。ポンプの方も入れ替えなければならないならすぐ入れ替える話にもなっている。高知南中高校は避難場所にもなっており2千何百人が避難できる。浸水した場合、約2ヶ月復旧できないという報道であるが、それを少しでも早く20日位で復旧ができるような話し合いも進めている。それについて、どのようにしなければならぬかという資料も見た。この様なことを今やっており、長期浸水になった時、今出ているものよりも少し早いペースで学校や地域が復旧できるように考えているから、ご理解下さいという話だった。いろんな話をしたが、県の防災関係の部署も取組をやっているのも、そのようなことを踏まえた上でシミュレーションなりをやっていくのも大事であると思う。危機管理部の方、土木部の方もいろいろな知恵、いろいろな案を持っているので、少子化のことがあるかもしれないが、どんどん話を進めて行くのはどうかと思う。液状化については、高知南中高校の校舎敷地の中は大丈夫である。高知西高校も同じであるが、道路は全部液状化すると聞いている。高知西高校に</p>

学校をつくっても、土佐道路は全部液状化する。高知西高校の近くには西部中学校がある。すぐ近くに県立中学校を新しくつくっても、浸水が無くても地震がきたときは火災の心配がある。前には古い住宅があり、両サイドには土手や川がある。そのような状況であるので、高知南中高校も危険であるかもしれないが、高知西高校も危ない。こういうことも少し考えていただきたい。本当に震度9、8になったときに逃げるに逃げられなくなる。住宅が密集しているところに建物をつくってしまうとそのようなことも考えられると危機管理部の方にも言った。すると、津波は大丈夫、津波はこないが地震の時には確かにそれはある。道はほとんど液状化になるであろうとのことだった。高知南中高校だけでなく、シミュレーションではイオンまで浸かるようである。高知南中高校だけが危ないのではない。そのこともちゃんと話し合いをしてもらいたい。また、今、高等学校のことを考えているが、中学校の学力の低さの問題があり、それが高校の問題にもつながっている部分もあると思う。高知市の教育委員会や議員にも伝えている。県の議員にも高知市の中学校の学力向上をちゃんとしないとイケないのではないかとやっている。中学校の対策をしなくて高校だけ、高知南高校をこうして、高知西高校をこうして、国際バカロレアと言っているが、英語をやる前に国語をちゃんと学ばなければならない。数学をするにも社会も理科も基本は国語をきちっと理解したうえでである。国語力を上げなければならない。中学校のレベルも低い、中学校のレベルも上げなければならない。高校ではなく、まずは中学校の学力をきちっとした形で上げて、みんなが中学校を卒業した時に、私立でも県立でも高校に進学できるようにしなければならない。学校に行っていない生徒がたくさんいることも知っているだろう。高校にも行っていない子どもが高知にはたくさんいる。仕事もするところがない子どももたくさんいる。その子たちも高校に行きたかったと言っていた。どうしても学校で勉強が上手くいかずに高校に行けなかった生徒が、1人や2人ではない。中学校の事もきちっとしたうえで高校の見直しを考えるべきではないか。このことは、県だけでなく高知市の教育委員会にも言っている。こういう対策を中学校でしたうえで、生徒数が少ないので高校をどうしようかという話をしても少しも遅い話ではないのではないかとと思っている。また、そのようなことも高知市の教育委員会ときちっと話をして、学力向上、国際バカロレアも良い、何をやるのも良いが、その前に全員が一定基準の学力を持てるような環境をつくるのが教育委員会ではないか。

高知南中高校については、スクールカウンセラーといっているが、先生の方がストレスを抱えている。スクールカウンセラーに相談に行く子も何人かいると思うが、ほとんどが担任の先生、部活の先生に相談に行っているのが実態である。先生の方がストレスを抱えながら、仕事をしているのが事実である。先生方へもきちっと対応してあげないと、先生方もしんどい。そのようなこともきちっと話し合いをして欲しいと思う。

保護者代表

一つ聞き忘れた事がある。先日、高知西高校の関係者との協議をもたれたが、

	<p>統合案で協議されているが、高知西高校の反応はどのようなようであったか。教育長よかったらお願いします。</p>
教育長	<p>高知南中高校と統合するということに対しての高知南中高校の関係者への配慮をきちっとやってくださいということでは言われている。ぜひ、きちっと話をしてくださいとのことであった。</p>
保護者代表	<p>賛成か、反対かといえば、どちらか。</p>
教育長	<p>反対、賛成ということではなく、高知南中高校の関係者の皆様との話をきちっとやってくださいとは言われている。</p>
保護者代表	<p>校友会ともども、PTAともども受け入れてくれるとの話はあったのか。統合であるので名前の変更に関しても話をしたのか。</p>
教育長	<p>名前についての話はしていない。具体的に名前が出たのは須崎高校、須崎工業高校との協議会であった。その時、私が申し上げたのは、名前というのは、どちらの学校の関係者も愛着をもっており、統合決定以前から我々として名前のことを話すことは難しいので、統合が決定した後に関係者の皆さんが納得行く形で、もちろん我々がリードする形になろうかとは思いますが、話を進めないとなかなか決めることができないのではないかと。</p>
保護者代表	<p>今まで5回ほどこの様な会が開かれているが、その中で、これは案であるにかかわらず何一つ変更点が出てこない。教育長が言ったとおり、保護者も生徒全員できれば高知南高校を卒業させてあげたいという気持ちを持っている。これからはずっと。しかし、一つ違う考え方として、統合であれば会長が先ほど言ったように、生徒数を徐々に減らして行って子どもたちに寂しい思いをさせて、運動もできない、勉強もできない寂しい環境に置くのではなく、例えば4年先に中学3年生が卒業し、その時に一気に統合する案はどうか。それなら問題ない。一気に変わるという案を一度考えていただき示していただくことはできないか。</p>
教育長	<p>お話しいただきましたので検討はしたいと思う。</p>
保護者代表	<p>この様な形の移り変わりを示してもらいたい。それまでに、私たちもこの案を見て検討したいので、またこのような場をもうけてもらいたい。次の場を設けてもらえるか。</p>
委員長	<p>そのことについては検討してみたい。</p>
保護者代表	<p>これで終わりということではないか。</p>
委員長	<p>今日の議論を踏まえてどのような形でいくか内部で検討する。</p>
保護者代表	<p>このことについては、どのような方法で回答してくれるのか。</p>
教育長	<p>話があったので、ぜひそのような場は考えたい。</p>

○高知南中高関係者 校友会と、進取会、国際教育振興会との意見交換

<p>校友会代表</p>	<p>校友会の立場からいろいろな意見があるが、要約すると感情論でしかない。一番心配なのは、今後何も変わらない、話し合をしても、意見を出しても、出しても、結局「そうではない。」と全然変える姿勢がないことである。この場において、先が示されていないのが校友会の立場として非常に不安である。統合、統合と言っているが、結局廃校でないかと感じて取っている部分があり、統合後のことが全然示されていないことが不安である。</p> <p>先ほど、入学した学校で卒業をと言われていたが、入った学校で卒業してもらいたいというのは、母校を思う気持ちがあるから、ここの学校が好きで入ったからこそ、ここで卒業したいと言われていたと思うが、実際の統合の内容は全然そのような感情ではなく、「危ないから」ということで話が進んでいると思う。今の生徒たち、これからの生徒たちのことを考えると、その感情を前に出してもらって、先ほど言われたように「致し方がない」という感じではなく、高校に入学して徐々に下がってこない状態でなく、一気に変わるとかいった、前向きな話をちょっと出してもらわないと、変わらないのではないかとみんな薄々思っている。進んだ会話ということで、ある程度出してもらった方が建設的な話ができる。校友会の立場で、みんながみんな納得することはなかなか難しいことである。統合ということであれば、今学んでいる生徒、これから高知南中高校に入って学ぶ生徒に、入った学校で絶対にそこで卒業しなければならないという固いことを言わず、一番生徒が勉強しやすい環境で、その場で統合してもらおうと卒業の場所がどこであろうと母校愛が出るのではないか。これは、私の個人の見解である。</p>
<p>進取会代表</p>	<p>高知南高校が創立 30 年近くになるが、今回は、PTAの先輩の方々から進取会を引継ぎ 10 年間進取会長としてやってきた自分の思いを教育長、教育委員長にぶつけたと思っている。今回このようなPTAの意見への回答をいただき、見せてもらって、かなりな議論はしていただいたのだと思う。</p> <p>高知南中高校の教育環境の充実ということで、説明と資料をいただいた。最初の 1 月 27 日のたたき台の前期計画の発表の時に、募集停止が平成 30 年度からはじまったときの影響への対策について、案ではあるが、手当はしますよ、先生を増やしますよ、財政的にも検討したいと書いてあったと思う。今回の資料で見ると、心のケア対策とは別に、グローバル教育や海外派遣研修の充実などがあり、なかなか現実的には大変なので、今まで、国際教育振興会や進取会で融通をきかせやってきたことにも手当してくれるのだなと思っている。最終的には 10 年間かけて閉校し、高知西高校へのシナリオということで、その中でグローバル教育とかキャリア教育とかがあって「うーん」という感じで受け止めている。自分もインターネットなどで勉強させてもらったが、国際バカロレアの認定校になるにはなかなか難しい。そのようなものを目指すことは大事だと思うが、高知県民は熱しやすく冷めやすい県民性であり持続性がない。そのことが良いことかもしれないが、やるとなれば、先を見据えたことをやって</p>

<p>進取会代表</p>	<p>いただきたい。私見であるが、公立校が認定校になることは、無理だと思っている。</p> <p>前回もいろいろ意見を言わせてもらった。今回も保護者の方から多くの意見が出ていて、それに対する回答をいただいている。このような会を重ねていろいろな意見を聞いてきて、大きな反対の意見も出ている中で、今回一定の期間が経ち、先ほど校友会の方でもあったが、別の提案があるとか、意見を取り入れて、このようにしていくとかの声が上がってこない。初めから統廃合ありきで、このような機会を持ったと言い訳づくりをしているように受け取らざるを得ないような雰囲気を感じている。小規模校であれば効率的な教育が施されないようなこと、震災での津波の問題との二つの大きな問題をあげているが、両方とも努力により回避できない問題ではない。このようなことを理由にして高知南中高校を廃止にして高知西高校に統合していくが、高知南中高校を残して津波の対策をしてしっかりやっていって、小規模の中でも、このような工夫をしていき、こんな努力をしていけば、こんな教育効果があがるということを一方では検討すべきであると思うが、そのようなことが全くない。これでは、結論ありきと取らざるを得ない。これぐらい多くの意見を聞いて、どの様に考えが変わってきたのか、どのように取り入れていこうとしているところかをぜひ聞きたい。</p>
<p>教育長</p>	<p>2つの団体から意見が出たので、それぞれに答えていきたい。最初に校友会からの話については、保護者代表からも意見をいただいたので、検討させてもらう。</p> <p>進取会から、教育の充実に関しての内容であるが、この中でできれば心のケア対策についてはすぐにも始めていきたいと思っている。例えば、養護教員の複数配置などは早急に対応していきたい。それ以外のことについては、人員配置などは予算が伴うこともあるので、これについては、今後具体的なことは詰めていきたいと考えている。国際バカロレアの認定校についてはなかなか難しいという話であったが、確かにハードルが高いということは我々も承知している。それに向けて教員の研修を含め先進校の取組の勉強も含めて、我々としてしっかりとしていきたい。統合案を最終的に進めるということになれば、是非認定を受けるための最大限の努力をしていく。国の方では、全国に200校程度の認定校をつくっていききたいという考えがあるので、是非、高知県からも少なくとも1校はそのような学校をつくりたいので、全力で取り組んでいきたい。最後、あれほど意見を言っても何も変わらないとか、規模の問題や震災の問題は対応できるのではないかとの意見があった。今まで説明させてもらったことの繰り返しになるが、学校規模に伴う問題というのはどうしてもある。そのことについては資料で説明させてもらった。例えば、習熟度別授業ということの手厚い教育をとということになれば、国費が不足する分を県費で継ぎ足しをして、手厚い教員の配置などが必要になる。それは、高知南中高校だけで進めるという訳にはいかず、全県的に進めることが求められる。そうすると先ほど説</p>

<p>国際教育 振興会代表</p>	<p>明したように、県全体で毎年 17 億円という費用がかかると考えているので、統合することによって同じ形の教育レベルの維持が図られる中で、現実的な話ではないと考える。また、そもそも、学校全体の規模が小さくなることによるデメリットは避けられないと思う。</p> <p>震災についての対応は県として一定進めている。高知南中高校も一時避難所であり、また、防災教育についても進めている。しかし、立地条件を考えた時に、どうしても他の学校にないリスクがあると思う。その中で浸水のことと併せて、再開の問題や、東日本大震災の例などから、船舶が衝突するようなリスクがないとはいえない。このことを考えれば、リスクをできるだけ少なくする対応をしていきたい。</p> <p>何も変わらないとのことであるが、いただいた意見については検討させてもらう。どのような統合ができるかは、今の時点では言えないが、しっかり受け止めたうえで検討させてもらう。</p> <p>統合について何も変わっていない。統合案としても第 1 案しかない。たくさんの善意の署名をいただいているが、その時言われたのは「何も変わらなければ何もするつもりはない」ということだ。「教育委員会としてはこのような場をもち、カウンセラーを付ければ、私たちはこれだけのことをしたので、もういいだろうという時間稼ぎじゃないか」と言われて、悲しくなって今日も来た。どうか前回も言ったように別の案を出して欲しい。全然出てない。高知西高校も名前が変わるとか、いろいろ変わると言えば反対する。これは高知南中高校と同じである。対岸の火事のように相手のことを見ているだけかも知れない。私たちが高知南中高校であるから一生懸命になっていることも事実である。大変申し訳ないことであるが、このような心理である。その点でも第 2 案、第 3 案を出すように絶対してもらいたい。善意の気持ちを裏切らないようにして欲しい。この結果がどうなったか聞かせてもらいたいと何人もの方に言われている。</p> <p>国際交流であるが、平成 7 年から国際教育振興会ができ、タスマニアのマリスト高校、近年はアメリカのウエストリン高校また、長期の留学生で中国からとか、たくさんの異文化の交流をしており、何 10 名かの人 coming。そのようなことをどこの学校が引き受けてくれるのか。今は、国際戦争が起こりすごい時代になっている。学校のしていることは、国際交流だけでなく国際平和にも役に立っている。それを高知西高校で、今高知南中高校がしていることを受け入れることは決してできないことであり、他の学校でもできない。高知南高校は国際科があり、そのレベルがあり、普通科の生徒も国際科に影響を受け、英検 2 級位は取っておこうという気になるというのが国際科なのである。そのような学校をなくしてはならない。</p> <p>中高一貫の話題の時に教育委員さんが言ったように、高知の教育はおかしい、普通の公立中学校を出て、普通の公立高校に行って、国公立大学を目指せばよいと 30 年以上も思っていた。けれども教職員も子どもは私立学校に行かせ</p>
-----------------------	---

	<p>る。皆さんの中にも私立学校に行かせたお子さんがいるかもしれない。学力自体が中学校でなっていない、勉強がなっていない。未だにそうで、どんなにしても中学校の教育がなっていない。私は4人子どもがいるが、3人は地元の公立中学校であった。高知南中学校ができた時に、子どもが行きたいと言うので迷った。地元でも良いのではないかと。そのまま地元の中学校に行き国立大を目指せばよい、自分の好きな進路に進めば良い、遠くへ行く必要はないと言った。けれど県の関係者の方に、高知南中高校は鳴り物入りで作った学校であり、今に高知追手前高校を追い抜くそんな勢いでつくった学校であると聞いた。そうなのかと思い、違う所にも行かせてみようと思った。しかし、高知南中学校に入学したら地元の公立中学校と同じことであった。英検を目指す訳でもなく、内容も一緒、地元の中学校と同じことをして、どうして学力向上ができるのかと思った。それでも先生方も親も子も必死であった。悪い悪いと言われた2期生でも国公立大学に20名行った。5年ぐらい前から、学力選考を始めレベルが上がり、やっと良くなった。12年かけて良くなった学校を10年かけて潰すのか。自分がつくったことを成し遂げることが教育ではないかと、悲しくなる。これもできずに、他のことをして何ができるのかということである。悔しいと思わないか。都市部にできた中高一貫校として鳴り物入りでつくった学校を、みんなが努力して良くした学校を、教育委員会がこんなことであれば、絶対に高知県の学力は良くならない。どんなにしても良くならない。今まで何10年間最下位であったのか、高知県は。そのことを考えたら違うことをもっと考えるべきである。お金がないというなら、今は授業料が無償であるので親はお金を出す。私だって一生懸命頑張って寄付をする。もっと大事なことを考えて欲しい。先のことを考えるのであれば、こんなことじゃないことを考えなければならない。これは、私だけの意見だけではない。署名していただいたたくさんの方のなかには、「こんなことでは高知の学力は上がらない、悲しいことであるが失礼でもあるが、沖縄県か高知県かと何年も言われて何も変わらない。土佐の教育改革でも全然変わっていない、統廃合では変わらない。」と言っていた人もいた。高知南中高校をきちっとできなくて、何ができるのか。どうか高知南中高校を成功させてから大きな学校をつくるようにしてください。お願いします。</p>
進取会代表	<p>知っている方も、知らない方もいるかもしれないが、事実的には高知南中高校が閉校という形に誰が見てもなるだろう、統合後の高知南中高校の校舎は、80億円90億円の県費を費やしてつくったものである。後の活用の提案はある程度検討しているのか。最後にその点を聞きたい。</p>
教育長	<p>現時点では具体的な案はない。せつかくの施設であるので、もし統合するということになれば、できるだけ有効な活用は考えたいと思う。</p>
保護者代表	<p>今の意見を含めて、この案で推し進めて行くのか。高知西高校と高知南中高校との統合案であるので、今の案で進めていくのであれば疑問が残る。その辺を聞きたい。このまま今の案で進んでいくのか。何も変えずに中学生の在り方、</p>

<p>教育長</p>	<p>高知西高校への合併の仕方、先ほど言われた校舎の使われ方、校友会が言われたように、いろいろの制度が具体的な形で何も示されていない。今の示された資料の中の案で進めて行くのかどうか知りたい。なければ、再検討して欲しい。前回いただいた意見、文書の質問も含めて、それに対する我々としての考え方は整理して返させてもらった。今日、いただいた意見については、我々としても改めて検討させてもらう。</p>
<p>委員長</p>	<p>大変お忙しい中、遅くまで大変貴重な意見をいただいた。ありがとうございました。これからもよろしくお願いします。</p>